

西長堀駅(地下鉄千日前線・長堀鶴見緑地線)

三菱創業の地! 土佐稲荷神社へ



「大阪あそび歩マップ集」
その1 No.016

地下鉄西長堀駅

① 阿弥陀池和光寺

阿弥陀池には有名な伝説があり、古代、廃仏派の物部氏によって池に投げ捨てられた阿弥陀如来が、推古天皇6年(600)に信濃の住人・本田善光に拾われて善光寺まで運ばれたといわれます。元禄時代には池畔に和光寺が建立され、堀江の名物池として参拝客で繁栄しました。



② 木村兼葎堂邸跡碑

木村兼葎堂(1736~1802)は文人、画家、学者、コレクターで、北堀江瓶橋北詰の造酒屋の長子として生まれました。書齋庭に井戸を掘ったときに葎(兼葎)が出て、それを愛でて号としました。幼少のころから好学多芸で、文学、本草学、篆刻などに精通し、さらに蘭語も得意で蘭学者番付に名が載るほどでした。また『兼



葎堂日記』には延べ9万人もの来訪者が記録され、まさに大坂の知の巨人でした。

③ 土佐公園・土佐稲荷神社

かつては長堀川沿いで、土佐藩蔵屋敷があり、米穀、材木、鯉節、和紙、砂糖など土佐の特産物が扱われ、その屋敷内に稲荷社がありました。明治6年(1873)には元・土佐藩士で新政府高官となっていた後藤象二郎の斡旋で、坂本龍馬の海援隊の経理を担当していた岩崎彌太郎(1835~85)が「三菱商会」を設立。土佐藩の負債を肩代わりする条件で、船3隻を入手して海運業を始め、これが三井、住友と並ぶ日本三大財閥・三菱財閥の創業です。このとき彌太郎は土佐藩主・山内家の三ツ柏紋と岩崎家の三階菱紋の家紋を合わせて社章(スリーダイヤ)を作り、土佐稲荷神社の神紋の中にもスリーダイヤは入っています。

④ 西長堀アパート

昭和32年(1957)建設。東京の晴

海団地高層アパートと並び、日本住宅公団による高層住宅の第1号で、11階建てのマンモス団地です。関西の公団高層住宅の先駆けで、作家の司馬遼太郎、作詞家の石浜恒夫らが入居していました。司馬遼太郎は産経新聞夕刊連載の『竜馬がゆく』(1962~66)をここで執筆しました。

⑤ 鯉座橋跡

鯉座橋は元和8年(1622)の長堀川開削から明暦元年(1655)までの間に架設されたと考えられています。右岸に鯉節を売買する鯉座があったことが橋名の由来で、また土佐殿橋とも呼ばれました。

⑥ 白髪橋

鯉座橋と同じく、元和8年(1622)から明暦元年(1655)までの間に架設された橋梁と考えられています。橋名の由来は、新羅船がここに着岸して、後世、それが訛って白髪町・白髪橋となったといわれます。

地下鉄西長堀駅

